

大学図書館の保存機能を考える

矢野 誠

5年程前「大学図書館は知識の棺桶」というセンセーショナルな見出しで、段ボール詰めにした貴重書、雨漏りのする図書館等国立大学図書館の劣悪な保存環境の現状の記事が週刊誌『アエラ』に掲載されました。これは紹介された大学のための事ではなく、多くの大学図書館が抱える共通の問題でもありました。その後様々な努力により多少の改善が図られましたが、今でも大きな悩みの一つで有ることには変わりません。

本学の現状はどうなっているのでしょうか。附属図書館本館の資料収容能力は、約67万冊とされており、一方平成7年度末の蔵書数は97万冊、この内本館所蔵分は約78万冊となっております。備付け図書として学部図書室等に貸し出されている約16万冊あまりの図書が返却された場合を想定すると、既に本館の書庫は満杯の状態にある事がわかります。

現に書庫に入って見ると、棚によっては溢れてた図書が近くの別の棚に飛んでいたり、横積みになっていたり、ある分野の資料が遠く離れた場所に配架されていたりしており、利用者の皆さんに多大なご不便をおかけしております。

こうした事の解決策として書庫の増築を考えるわけですが、これも必ずしも良い事ばかりではありません。例えば、出納作業ばかりではなく利用上の動線も長くなる、増築による設計上の制約から使いにくい構造になりがち、電気料を始めとする維持費の増加等々です。

ここで考えたいのは、それでは現在書庫内に重要度の低い資料はないのかと言うことです。もちろん大学図書館の使命の一つに資料保存の機能があります。とは言え現在所蔵する資料すべてが今も均等に必要な物なのか再検討する必要が有ります。

単純化して考え易い例として、重複資料があります。従来から一般的に大学図書館の蔵書の2割から多い場合3割が重複しているといわれており、本学にもこの率は当てはまるようです。先の蔵書数を元に単純計算すると、重複率2割と仮定しても本館だけで約16万冊となります。勿論これはあくまで一応の目安にすぎませんが、年間受入れ数の約10年分にあたる大きな数字となります。

指定図書のように、当初は需要が高いために受入れた複本も、時がたつにしたがって次第に利用頻度が低下し、重複本が不用になる場合があります。又辞典・事典・六法全書といった類の資料は新版の発行により、利用価値は急速に下がります。

全国の国立大学においても、この問題には真剣に取り組みを始めております。最近の各大学図書館報では、不用決定についての記事がよく見受けられますし、図書館関係の雑誌でもズバリ「ザ・廃棄」とい

つた特集を組んだ号もあります。本学も加盟する国立大学図書館協議会は、「保存図書館に関する調査研究班」を設置し、年々増加する学術資料の保存施設と利用のあり方について多角的に調査しています。

又平成6年2月に、学術審議会から報告された「大学図書館機能の強化・高度化の推進について」の第5章「図書館資料の効果的な保存と利用」の第1節「図書館資料の保存と廃棄」の中では、「必要な図書館資料を一定の基準に従って確実に保存するとともに、適切な廃棄を行うことは、スペースの効率的利用や、資料の有効利用を図る上で極めて重要である」と報告がされております。

一方本学においても現在将来構想検討委員会において、当面する問題解決に向けて検討が進められておりますが、この中の「サービス向上への基盤整備」の書庫管理問題の中でも、保存（廃棄）基準について検討が進められております。法的な面では、物品管理法を受け、文部省所管物品管理事務取扱規程には、第27条に「不用決定承認」、28条に「不用決定の基準」、29条に「廃棄の基準」が規程されており、静岡大学物品管理事務取扱細則第18条にも「不用の決定承認」としてその処理方法が示されております。こうした規則により考え方を含め処理方法が示されているわけですが、図書及び雑誌といった学術資料は他の物品と違い、慎重な取扱が必要なのは当然です。不用決定から廃棄に至るまでの明確な認識と必要性について学内のコンセンサスを得ながら、この仕事を書庫の狭隘対策としてのみ消極的にとらえるのではなく、より利用しやすい、判り易い資料配架を目指して積極的に取組みを進めて行く必要があります。

そしてこの問題は、現在実施されているILL（全国相互利用シスム）を更に整備充実するとともに、地域での館種を越えた図書館協力のネットワーク化を進め、資料の分担保存を図るとともに、共同保存図書館にまで視点を広げた中で検討を重ねていく必要があります。（附属図書館情報サービス課長）

投書箱から

Q. 「教育学研究」等、権威ある学術雑誌を図書館に配架しておいていただけませんか？購入してあっても、学部研究室に貸出してあつては意義が半減してしまいます。どうかご検討下さい。（教育学研究科・院生）

A. ご指摘のとおり、図書及び雑誌のうちその学問分野のかなりの新刊図書、コアジャーナル等が学部図書室、研究室等に「備付け図書」として貸し出されております。

この制度は静岡大学の生い立ちを含め、長い歴史的背景を持つものです。とは言え、学内に所蔵が確認できた資料は教官、学生を問わず確実に利用出来る様にしなければなりません。現在、図書館将来像検討委員会の中で「資料の集中と分散」について検討して戴いております。結論が出次第改善を図りたいと思います。（情報サービス課）

図書館は大学の顔 ～浜松分館より～

茎 田 美 保 子

ここ数年、大学は組織再編成と電子時代の到来とに、大きく変わろうとしている。大きな船がゆっくりと向きをかえていく時のような感触も受ける。しかし、現実はそのように悠長に事を構えていられるわけもなく、誰しもが日々迫ってくる日常のあれやこれやの対応に追われているのであろう。

さてそんな中、図書館は旧態依然としていてもいいのだろうか。もちろん、いいわけではないのであるが、人間どうしても今日我が身にふりかかった問題から解決していくもので、なかなか皆さんに自分の問題として考えていただけないのは共通部局の悲しさでもある。

故高柳健次郎先生が神奈川工業学校の教員となり初めて給料をもらった時、丸善に飛んで行き外国雑誌を10種類以上一度に3年間の購読予約をされたという、おかげで初任給がふっとんだと述懐なさっているが、なにかそのような熱気を受けながら仕事がしたいと思う。

前置きはさておき、浜松分館について歴史をふりかえりながら、考えてみたいと思う。

いま、昔・・・

浜松分館は昭和24年6月静岡大学創設とともに工学部図書館として発足し、その年11月、中央図書館がおかれると工学部分室と名称をかえて業務を開始した。当時の建物は木造平屋建て346㎡を寄付により竣工し、旧軍の建物を書庫として使用していたという。

その後昭和34年「静岡大学附属図書館規則」が制定され、中央図書館と各分室を統合整理、工学部分室は工学部分館となった。また昭和40年代に入ってから静大統合問題がもちあがり、教養部の静岡設置などの大きな改革を経て、昭和41年いよいよ工学部分館は浜松分館と改称することになる。

記念図書館として新館竣工

昭和47年工学部50周年記念事業として建設計画された図書館が完成した。文部予算に加え記念事業会から書庫、施設関係の寄付を受けてできあがった新館は、昭和39年より旧軍の格納庫を模様替えして仮設図書館として使ってきたことを思うとまさに待望の図書館であったと思う。図書館の設計にあたっては、すべての教官、学生に親しまれ、各自の書斎代わりに気楽に利用できることをめざし、外部は玄関脇の造園、緑の芝生に囲まれ、内部は明るくさわやかな色調にまとめられた。絵画、書、陶芸品なども飾られ、特に閲覧机、椅子、目録カードケースには天童の木製品を使い、明るさとともに落ちついた雰囲気をも作っていた。この机や椅子は25年を経た今でも健在で浜松分館のいごちのよさはこれらの調度品にもあると改めて思う。

この当時は各学科に図書室があり、それぞれの専門の雑誌、図書は分散配置されていた。利用者が限定されていた（教養部生がいない）浜松キャンパスにおいては図書館は主に学習スペースを提供し、たぶん各学科、研究室に支えられての浜松分館であった。

雑誌集中化そして増築

昭和50年代半ばになると理工学系を中心とする学問分野での学術情報量は日増しに増大し、また情報検索システムの発達により他館との相互利用も活発になってきた。昭和55年より雑誌の集中化、増築につい

ての検討が重ねられ、昭和58年3月、1035㎡の増築部が竣工した。この増築とともに各学科等にあった図書室は一部を除き閉室し、雑誌は基本的に分館に集中配架することになった。それまで学習図書館としての主な役目をようになってきた分館は、ここで研究図書館としての機能を加えさらに発展することになる。雑誌の集中化にともない、研究者が閉館後も利用できるように夜間自動入館装置を設置したのもこの時期である。

また増築部の設計にあたっては車椅子での利用も考慮し、玄関スロープ、身障者用トイレの設置や書架と書架の間隔を広くとるなどの工夫をしている。この書架の間隔の広さは分館全体を明るく感じさせている一要素ともいえるだろう。

21世紀に向けて

さてここへきて時代の波は情報化、インターネットの画期的な普及により一部大学だけではなく、いまやお年寄りから子どもまで情報化社会にとりこまれていくようにみえる。

社会の流れは周知のとおりであるが、従来情報を蔵書としてとりそろえ利用者に提供してきた図書館は、利用者が直接、簡単に情報源にアクセスできる道がひらかれてきた現在、その存在価値をどこに見出すことができるだろうか。

浜松分館のような小さな図書館でも、今では業務連絡は電子メールに頼り、第1巻から所蔵し毎年のようにその高額な購入価格に問題をふりまきながらもとり続けている Chemical Abstracts は今年度から購入形態を冊子体からCD-ROMへと変更した。エレクトロニック・ジャーナルもまた一部契約をすませ利用者に提供している。

国内でも一部試みられている所蔵資料をデジタル化するという電子図書館の取り組みに強い関心を寄せながらも、私たちの図書館に求められているものはこれだけだろうかという思いもふつふつと沸き上がってくる。

図書館へは決まった資料を求めてやってくるばかりではない。ぶらぶらとながめてまわっているうちに思わぬ収穫を得ることもある。またこのところ、閉館のアナウンスをするのも申し訳ないほどに熱心に勉強している多数の学生の姿がみられる。連日満席に近い状況であることを思うと、より快適に、そしてほっとする余裕のある場所としての図書館を提供したいと思う。大学の中に一カ所くらいそんな空間がほしい。

浜松キャンパスへの情報学部の新設と、電子化で確かに質的変革を要求されている今、教官、学生、職員、図書館員すべての大学構成員がアイデアを出し合い、見通しをもった総合的判断で新しい浜松分館が生まれ、図書館が大学の顔となることを願っている。

(浜松分館管理運用係)

投書箱から

- Q. 静岡大学に勤務されている教官の著書、執筆した雑誌は図書館に所蔵されていますか？ 講義のレポートを書く際や、卒業論文を進める上で、必要になる場合も少なくないようです。（教育学研究科・院生）
- A. 毎年かなりの数の教官著作物が寄贈されております。しばらく中断しておりましたが、図書館通信今号（116号）からご恵贈いただいた著作物について紹介しますのでお役立て下さい。なお、雑誌論文については特に収集する事はしておりません。
- 毎年発行されている「静岡大学の教育と研究」（参考閲覧室に配架）に研究業績としてその年度に執筆された主な論文等5点が掲載されておりますので参考にして下さい。（情報サービス課）



「キャンパスの遺跡展」開催

本附属図書館において、去る6月11日～20日の期間、本学人文学部考古学研究室による「キャンパスの遺跡展」が開催されました。「静岡大学構内古墳群」より出土した遺物を中心に、その古墳群の写真、そして、鉄鏃や勾玉、管玉、丸玉、須恵器などの貴重な資料が展示され盛会に終了しました。

<情報学部学生用図書の利用について>

このたび情報学部学生用図書 772 冊を、5階開架閲覧室に配架しましたので御利用願います。配架場所は閲覧室の南西のコーナーです。一般開架図書とは別置して配架してあります。(電算目録で検索すると、配架場所が「開架情報学」と表示されます。)どの学部の学生でも、閲覧・貸出できます。但し閲覧の場合、閲覧した後は必ずこのコーナーの元の場所に図書を戻して下さい。

<開架第二閲覧室(仮称)の利用について>

5階の開架閲覧室の東側に第二閲覧室(仮称)ができました。利用者の皆さんは、7月8日(月)よりこの閲覧室が利用できるようになりました。閲覧座席数は現在26席です。どうぞご利用ください。なお第二閲覧室の利用時間は、平日(月～金)の午後6時までです。(土曜日は閉室)



学外への文献複写・現物貸借の申込みはお早めに!

9月下旬から12月初旬は、図書館間相互利用による文献複写・現物貸借(ILL)の依頼が多くなります。

文献を入手するまでの期間は、早い場合には3日位ですが、通常1～2週間かかります。依頼受付館の事情もあって日数がかかる場合もありますので、余裕をもって依頼してください。

申込みは所定の<依頼書>の注意事項をよく読んで記入してください。

確実・迅速に文献を入手するために、文字は読みやすく正確に記入することは、もちろんですが、ぜひ次の事項をお願いします。

<雑誌>「学術雑誌総合目録」に記載されている、AA 番号(洋雑誌)、AN 番号(和雑誌)を「備考欄」に記入してください。

この時、静岡大学の所蔵の有無を再確認してください。

<図書> 所蔵先は、まず、カウンターの端末で全国の総合目録(NACSIS-CAT)の検索を行います。1987年以前の出版物については、所蔵館があっても登録されていない場合もありますので、以下の目録等でも調べるようにしてください。

和書:「国立国会図書館蔵書目録」(冊子体)、「J-BISC」(CD-ROM)等

洋書:「新収洋書総合目録」(冊子体)等

【参考】相互利用にかかる経費は、受付館が国立大学の場合次のとおりです。

<複写> 1枚(35円)+郵送料 <借受> 往復の郵送料(簡易書留・書籍小包)

詳細はレファレンスの窓口(参考調査係)までどうぞ!

教官著作寄贈図書一覧(本館)

*このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた図書を一覧したものです。受入期間は平成元年から平成4年までです。なお、所属は受入当時の所属を示します。また、この続きは次号以降に掲載予定です。

荒川紘(教養部)

◇科学と科学者の条件。海鳴社【402/A63】開架

◇車の誕生。海鳴社【536.85/A63】開架

安藤実(人文学部)

◇町営大井川港史。【683.921/A47】

石塚経雄(名誉教授)

◇無の自由から真の自由へ(続)。大明堂【151.2/I842】

伊藤次朗(名誉教授)

◇Studies on Cercariae in Japan. Sanso【483.4/I89】

伊藤宏(教育学部)

◇実践陸上競技。〈執筆〉大修館書店【782/N77】

◇陸上競技指導教本:種目別実技篇。〈執筆〉大修館書店【782/N77/1】

◇陸上競技指導教本:基礎理論篇。〈執筆〉大修館書店【782/N77/2】

上野実朗(名誉教授)

◇植物文化誌(改訂版)。風間書房【470.4/U45】

上原信博(名誉教授)

◇構造転換期の地域経済と国際化。御茶の水書房【332.107/U36】

植松茂(名誉教授)

◇古事記中下巻試論。明治書院【210.3/U41】

埴田重夫(人文学部)

◇中国名言鑑賞辞典。〈執筆〉ぎょうせい【920.33/U77】参考

大江泰一郎(人文学部)

◇ロシア社会主義・法文化。日本評論社【322.38/O18】開架

落合良行(教育学部)

◇青年期における孤独感の構造。風間書房【371.47/O15】開架

小和田哲男(教育学部)

◇北条早雲とその子孫。聖文社【289.1/H810】

◇新・日本武将100選。〈監修〉秋田書店【281/N77】

◇軍師・参謀:戦国時代の演出者たち。中央公論社【210.47/O93/S】

◇善得寺の研究:調査報告書 / 富士市教育委員会。富士市教育委員会【215.4/F66】

◇日本の歴史がわかる本:古代—南北朝時代篇。三笠書房【210.1/O93/B1】

◇日本の歴史がわかる本:室町・戦国—江戸時代篇。三笠書房【210.1/O93/B2】

◇日本の歴史がわかる本:幕末・維新—現代篇。三笠書房【210.1/O93/B3】

◇国際情報人信長。集英社【289.1/O170】

角張嘉孝(農学部)

◇ブナ林の自然環境と保全。〈執筆〉ソフトサイエンス社【653.7/Mu41】

影山静夫(名誉教授)

◇自然は生きている:光も影も色も変わる。浜松工業会【748/Ka18】開架

勝井晃(教育学部)

◇発達心理学:幼児・児童・青年の発達と教育。〈編著〉八千代出版【371.4/Ka87】

◇子どもの発達と教育に関する最近の諸研究:勝井晃教授退官記念論文集 / 静岡大学教育学部心理学研究室編。八千代出版

【371.45/Sh94】

加藤一夫(名誉教授)

◇トマス・モアの社会経済思想。未来社【309.2/Mo43K】開架

金澤史男(人文学部)

◇地方中核都市の住宅・住環境調査。〈執筆〉東京大学社会科学研究所【365.3/To46】

金田利子(教育学部)

◇乳幼児保育論。有斐閣【376.11/Ka52】

金田利子(教育学部)、柴田幸一(教育学部)

◇母子関係と集団保育。明治図書出版【376.1/Ka52】

狩野謙一(理学部)

◇野外地質調査の基礎。古今書院【455.07/Ka58】

河田伸一(農学部)

◇河田杰;上・下。〈編〉河田伸一【289.1/Ka92K/1-2】

小島英夫(理学部)

◇図説アインシュタインの相対性理論:特殊および一般相対性理論と宇宙論。〈訳〉大竹出版【421.2/G42】

◇奇妙な世界:論理と物理のパラドックス / S.ギブリア著。〈訳〉大竹出版【410/G42】

◇図説レーザー:未来を開く最先端技術 / S.ギブリア著。〈訳〉大竹出版【549.95/G42】

◇量子力学の世界。大竹出版【421.3/Sa8】

◇微積分を使う物理・使わない物理。丸善【420/Ko39】

◇量子力学 / G.F.ドゥカワ著。〈訳〉大竹出版【421.3/D92】

小嶋隆雄(農学部)

◇製材読本。〈共著〉日本林業調査会【657.3/Sa29】開架

近田文弘(理学部)

◇天城山系のツツジ類とブナの保護。静岡大学環境研究会【472.154/Sh94】

五井直弘(名誉教授)

◇春秋戦国時代の歴史と文物 / 李学勤著。〈共訳〉研文出版【222.03/R32】

後藤正夫(農学部)

◇植物細胞病学概論。養賢堂【615.81/G72】

坂本重雄(人文学部)

◇高齢化社会と年金・労災補償。勁草書房【364/Sa32】

佐藤博明(人文学部)

◇ドイツ会計制度。森山書店【336.9/Sa85】

塩川亮(教育学部)、長谷川信(教育学部)

◇大井川右岸用水史。〈執筆〉菊川町【614.3/O31】

重田澄男(人文学部)

◇資本主義と失業問題:相対的過剰人口論争。御茶の水書房【332.06/Sh29】

◇資本主義の発見。御茶の水書房【332.06/Sh29】

静岡大学理学部地球科学科

◇静岡の地球科学。〈編〉土隆一先生退官記念事業会【455.154/Ts24】

静岡大学教育学部附属島田中学校

◇わかり方の追求。明治図書出版【375/Sh94】

静岡大学税制研究チーム

◇消費税の研究:検証と展望。青木書店【345.7/Sh94】

静岡大学農学部林産学科

◇林産学科25年の歩み:磐田から静岡へ。〈編〉静岡大学農学部【377.28/Sh94】

志村鏡一郎(教育学部)

◇親と教師のための思春期学1-7。〈執筆〉情報開発研究所【371.47/O95/1-7】

白井嘉尚(教育学部)

◇みることの作用*ありうるものの祭儀 同時代の美術 A-Value 展
2. <編>A-Value 展実行委員会 【708.7/A96/2】 開架
◇記憶のありか*遍在する波動: 同時代の美術 A-Value 展 3. <編>
A-Value 展実行委員会 【708.7/A96/3】 開架
杉山恵一(教育学部)
◇ハチの博物誌 青土社 【486.7/Su49】
◇静岡昆虫紀(改訂2版) 著者 【486.1/Su49】
杉山忠平(名誉教授)
◇Enlightenment and beyond: political economy comes to Japan. <
編>University of Tokyo Press 【331.21/D32】
鈴木修二(保健管理センター)
◇区説スギ花粉症(改訂第2版) <執筆>金原出版 【493.14/Sh25】
竹本二郎(名誉教授)
◇パソコンで描くリサーチ図形 谷島屋書店 【424/Ta63】
土隆一(理学部)
◇土地分類基本調査: 5万分の1国土調査: 佐久間 <調査>静岡県
農地森林部 【455.154/Sh94】
◇土地分類基本調査: 5万分の1国土調査: 三河大野, 豊橋, 田口.
<調査>静岡県農地森林部 【455.154/Sh94】
外村直彦(人文学部)
◇比較封建制論 勁草書房 【362.04/To63】 開架
◇多元文明史観 勁草書房 【201/To63】 開架
中川誠(教養部)
◇ハズリット箴言集: 人さまざま <訳>彩流社 【937/H49】
中条修(教育学部)
◇日本語の音韻とアクセント 勁草書房 【811.1/N34】
◇静岡県の方言と暮らし <執筆>共立印刷 【818.54/Sh94】
中原幹夫(教養部)
◇Geometry, topology and physics. A Hilger 【414.7/N33】
中山葉子(教育学部)
◇生活の基本構造 日本出版サービス 【590/N45】 開架
難波邦雄(教育学部)
◇静岡サッカー70年のあゆみ <静岡県サッカー協会
【783.47/Sh94】 開架
新妻信明(理学部)
◇古生物学事典 <執筆>朝倉書店 【457.033/N77】
根本猛(人文学部)
◇アメリカ合衆国最高裁: 過去と現在 <訳>心交社 【327.953/R24】
橋爪祐司(理学部)
◇分子遺伝学の方法 学会出版センター 【467.2/H38】
長谷川信(教育学部)
◇戦間期日本の経済関係 <執筆>日本評論社 【332.106/O33】
廿日出正美(農学部)
◇ゴルフ場農業ガイド <執筆>化学工業日報社 【519.79/G68】
◇庭木と芝の病虫害マニュアル <共著>ワールドグリーン出版
【627.18/Mu59】
◇芝生の造成と管理 <執筆>全国農村教育協会 【629.7/Ma34】
◇環境にやさしいゴルフ場 <執筆>博友社 【519.8/G68】

堀部安一(工学部)
◇情報エントロピー論 森北出版 【007.1/H89】
本多隆成(人文学部)
◇近世静岡の研究 <編>清文堂 【215.4/H84】
前山隆(人文学部)
◇非相統者の精神史 御茶の水書房 【334.462/Ma28】
◇ハワイの辛抱人 御茶の水書房 【334.476/Ma28】
◇市民13660号: 日系女性画家による戦時強制的収容所の記録 <
訳>御茶の水書房 【916/O54】
◇Familialization of the unfamiliar world: the familia, networks
and groups in a Brazilian city. Cornell University, Latin American
Studies Program 【361.8/Ma28】
三木義一(人文学部)
◇現代税法と人権 勁草書房 【345.1/Mi24】
水野卓(農学部)
◇きのこの基礎科学と最新技術 <執筆>農村文化社 【657.82/Ki45】
◇キノコの化学・生化学 学会出版センター 【474.8/Mi96】
村井宏(農学部)
◇ブナ林の自然環境と保全 <編>ソフトサイエンス社 【653.7/Mu41】
◇総合森林学 <執筆>地球社 【650.1/Ka37】
◇日本の海岸林 ソフトサイエンス社 【653.9/N77】
村井泰広(農学部)
◇アラブ首長国連邦砂漠緑化研究協力総合報告書: 1985.9-1989.3.
国際協力事業団 【601.286/Ko51】
望月郁子(人文学部)
◇類聚名義抄の文献学的研究 笠間書店 【813.2/R84M】
山崎真秀(人文学部)
◇内申書を考える <編>日本評論社 【376.8/N28】
山本節(人文学部)
◇神話の森: イザナキ・イザナミから羽衣の天女まで 大修館書店
【164.1/Y31】
◇伝承の宇宙: 昔話・伝説・噂話にひそむもの 北辰堂 【388.121/Y31】
山本義彦(人文学部)
◇暗黒日記: 1942-1945/ 清沢列著 <編>岩波書店 【210.75/Ki91/B】
◇五五年体制と安保闘争 <執筆>青木書店 【210.76/R25/3】
◇近代日本経済史: 国家と経済 ミネルヴァ書房 【332.106/Y31】
山脇貞司(人文学部)
◇民法 5. 親族・相続(第3版) <共著>有斐閣 【324/Mi47/S5】
湯浅保雄(農学部)
◇静岡県の巨木 <共著>静岡植物研究会 【653.2/Y96】
吉田正義(名誉教授)
◇芝生の病虫害と雑草 全国農村教育協会 【629.7/H95】
◇芝生病害虫・雑草防除の手引 <執筆>日本植物防疫協会
【629.7/Sh17】
米山徹(理学部)
◇アインシュタインの遺産 / ジョアン・シウヴァー著 <訳>日経サイエ
ンス社 【421.2/Su8】 開架

図書館では学内関係者が執筆した図書資料を収集しています。

出版されましたら是非、図書館に1部ご恵贈くださるようお願いいたします。

■図書館委員会報告

(平成8年度第1回:平成8年6月21日(金))

議題

1. 平成8年度図書館予算について
2. 理工学研究科の図書館委員会委員の選出について

報告事項

1. 平成8年度大型コレクション等の収書計画について
2. 「図書館資料費の配分及び負担等の基準」の一部差替について
3. 平成8年度東海地区国立大学図書館協議会について
4. 国立大学附属図書館事務部課長会議について
5. 附属図書館将来構想検討会議のその後の開催経過について

(平成8年度第2回:平成8年7月29日(月))

議題

1. 平成8年度図書館予算(案)について
2. 平成8年度学生用図書購入費の配分について

報告事項

1. 附属図書館将来構想検討会議の中間報告について
2. 国立大学図書館協議会総会について

■人事異動

(辞職:平成8年3月31日)

濱口 敦子(運用係)

平山紀美江(浜松分館管理運用係)

疋野 尚幸(浜松分館管理運用係)

(配置換:平成8年4月1日)

能村 浩次(情報サービス課長→愛媛大学附属図書館情報サービス課長)

矢野 誠(旭川医科大学図書館課長→情報サービス課長)

塚本 雅美(浜松分館管理運用係長→学術情報係長)

奥田真佐子(群馬大学附属図書館→和書係)

米津 友子(参考調査係→洋書係)

横山 芳美(和書係→参考調査係)

(昇任:平成8年4月1日)

望月 信夫(学術情報係長→鹿屋体育大学図書館情報課長)

藤田みよ子(洋書係→浜松分館管理運用係長)

藤田 洋(運用係→図書館情報大学図書館情報課専門職員)

(新規採用:平成8年4月1日)

杉浦 昭重(運用係)

杉山 泰代(運用係)

西垣 聖美(浜松分館管理運用係)

上村 和也(浜松分館管理運用係)

■平成8年度図書館委員会委員

館長 久保 靖
分館長 石井 仁

人文学部 三富 紀敦 三浦 弘万
教育学部 久島 茂 大塚 謙一
理学部 櫻井 厚
和田 秀樹(兼任 理工学研究科)
工学部 戸田三津夫(兼任 理工学研究科)
農学部 竹内 久直 西垣定治郎
情報学部 中尾 健二 富樫 敦
電子工学研究所 中西洋一郎 村上 健司
電子科学研究科 木下 治久 河本 映
法経短期大学部 土田 和博
本部 沖吉和祐→大嶋 浩(平成8年7月1日より)
附属図書館 鈴木 英夫

■平成8年度図書館業務電算化委員会委員

館長 久保 靖
分館長 石井 仁
人文学部 三富 紀敦 三浦 弘万
教育学部 久島 茂 河合 学
理学部 櫻井 厚 小沼 茂樹
工学部 戸田三津夫
農学部 竹内 久直 西垣定治郎
情報学部 中尾 健二 富樫 敦
電子工学研究所 村上 健司
法経短期大学部 土田 和博
附属図書館 鈴木 英夫 森松 睦雄
矢野 誠 塚本 雅美

■平成8年度附属図書館将来構想プロジェクトチーム

人文学部 三浦 弘万
教育学部 大塚 謙一
理学部 櫻井 厚
工学部 戸田三津夫
農学部 竹内 久直
情報学部 中尾 健二
電子工学研究所 中西洋一郎
電子科学研究科 木下 治久

■平成8年度「図書館通信」編集委員

館長 久保 靖
農学部 竹内 久直
法経短期大学部 土田 和博
附属図書館 佐藤 和慧 塚本 雅美
米津 友子 渡邊 通江

<学外への文献複写・現物貸借の申込みはお早めに!>→p. 5 参照

当館で所蔵しない資料は、図書館間相互利用により、他機関へ文献複写や相互貸借を依頼することができます。
9月から12月にかけては、特に混み合いますので早めに申し込みをして下さい。